

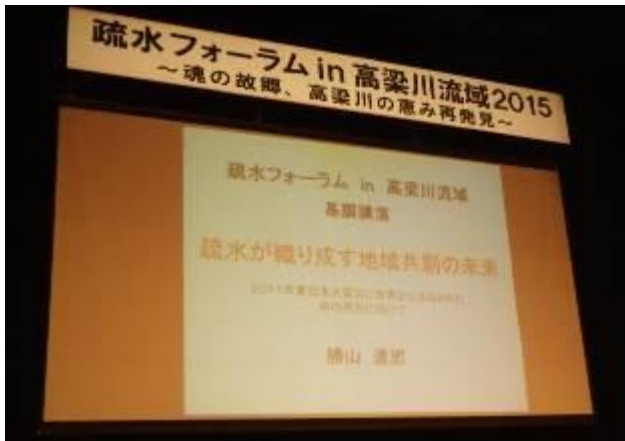
## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年11月20日
タイトル	疏水フォーラムin高梁川流域2015へ参加して
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年11月10日、11日にかけて岡山県倉敷市において「疏水フォーラムin高梁川流域2015～魂の故郷高梁川の恵み再発見～」が開催されました。水土里ネット福山とはすぐお隣になり興味津々で参加しました。

疏水は、農業用水だけでなく生活用水などに利用し地域住民の憩いの場や動植物の生育空間となるなど、多目的機能を発揮しており、農業者のみならず国民共有の貴重な財産であることから、広く国民に周知し疏水を将来に引き継いでいくことができるよう、情報交換、情報発信等を行うことを目的に疏水フォーラムが開催され、今回で第10回となるそうです。

10日は、倉敷市芸文館で約400名が集まり基調講演、講演、事例報告やパネルディスカッションが行われました。



基調講演では「疏水が織り成す地域共創の未来」と題し、前田建設工業株式会社常務理事で農学博士でもある勝山達郎氏が講演されました。

二千年にわたる稲作でその命脈となる水路網と水利用共同体、すなわち疏水が美しい日本の原風景と国民の食や暮らしの安定した礎を創造したものであることを話されました。思えば、農業用水路は身近に存在して、言わば血管のようにあるのが当たり前とと思っていましたが、先人が悠久の昔から大変な苦勞をして築き、そして守り続けたものであることに改めて気付きました。

日本は、限られた資源と厳しい自然環境の中で40万km（地球10周）の水路網と水利慣行や村の共同社会が発生し、それこそが東日本大震災で世界が注目した「絆」の原点であり、極めて日本的な村方式の合意形成が世界に誇れる画期的なシステムであると話されました。

しかし、農業者の減少・高齢化、混住化や価値観の多様化の中では従来の伝統的な村方式は限界となっており、様々な人が地域と共創していく新たな方式が必要となっています。これからは、老若男女、様々な組織から複数のリーダーで構成し、組織間の連携と協力により話し合いによって意思決定を行うことが必要と話されました。三種のリーダーとして「駆ける人、まとめる人、支える人」をあげておられ、大変興味深い内容でした。

今後は、疏水などの資源や資産といった地域の宝の発掘や伝統、歴史、文化を組み入れ、地域と連携・協力して新たな価値を創造することが21世紀の日本にふさわしい新たな「絆」の創造であると話されました。

これからの農業の在り方も含めて、未来に向けて何ができるのだろうかと考え、21世紀土地改良区創造運動に繋がると思いました。

講演では「高梁川が地域に果たしてきた役割」と題し、高梁川流域学校代表理事の大久保憲作氏が講演されまし

た。岡山県の3大河川の一つ「高梁川」の恵みを受ける7市3町の「高梁川流域連盟」が農業をはじめ文化・産業・人材の交流の場として「高梁川」を魂の故郷として守り続けておられることや昭和29年に大原聰一郎氏が書き上げた「高梁川流域連盟趣意書」が基となり、身近な隣人たちと地域の明るい未来のために働き、有意義な活動を生み出すため「高梁川流域学校」を設立されたそうです。

高梁川の豊かな流れが、農業から文化、教育と全てに繋がっていることと、高梁川の流域の広さと水量の豊かさを実感し、驚きと羨望で講演を聞いたのでした。

パネルディスカッションでは、司会進行に国立科学博物館館長の林 良博氏と公立鳥取環境大学副学長の三野徹氏を交えて有意義なお話をお聞きすることができました。

特に印象に残っているのは「今まで農業者が当たり前に行っていた水路の管理や用水調整は、実に素晴らしいもので、これをアピールする必要がある。」というお話で、水土里ネット福山でも従来当然として行ってきた水路の管理や利水・治水調整についてアピールしていませんでしたが、近年一般市民はもとより組合員の中でも「水土里ネット福山が何をしている所か分からない。」といった事をお聞きすることがあり、積極的にアピールする必要があることを感じていました。

2日目の11日は、現地研修として東西用水や備南畑かん地区などを視察いたしました。

東西用水では、高梁川から取水する「笠井堰」や「酒津配水池」「配水樋門」を見学しました。この「東西用水酒津樋門」は、平成15年に「土木遺産」に認定された端麗な構造で国内最大級の樋門だそうで、大きな規模の施設にびっくりしました。堰も配水池も配水樋門もとても大きくて、水土里ネット福山の施設と比べると親子ほど違いました。樋門から勢いよく流出している用水を見て、下流の多くの農地を潤していることを想像しました。



備南地区の畑地かんがい施設では、広大な丘陵地の斜面に温室群が並び、高台にある「配水池」のタンクがとても大きくて、ここでも規模の大きさに感嘆しました。道中バスの中での説明で、貝の卵の侵入を防ぐため、貝の卵を除去するイスラエル産の除塵機を設置したことを興味深くお聞きし、水土里ネット福山でもパイプラインのバルブがシジミにより破損することがあったため羨ましいなと思いました。



「晴れの国おかやま」らしく晴天に恵まれ、備南地区の高台からは高梁川から瀬戸内海まで見えて素晴らしい景色でした。

今回のフォーラムを参考に、今まで以上に21世紀土地改良区創造運動に取り組みたいと思います。